

顕彰状

池原義郎氏は、1928年3月25日に東京生まれ、1951年早稲田大学第一理工学部建築学科を卒業するとともに、1953年同大学大学院工学研究科建設工学専攻建築計画専修を修了した。

氏は、早稲田大学の建築学科教授として、建築デザインの教育に携わりながら旺盛な創作活動に従事し、建築美を極めた珠玉の作品を多く世に問うてきた。現在は、日本藝術院の建築分野における会員三名のうちの一人であり、最も長い経歴を有する建築家である。永年にわたり日本藝術院賞や村野藤吾賞の審査委員長を務め、日本建築学会賞の選考に携わるなど、審査を通じて後進の輩出に大きく貢献するとともに、現代建築作品の質の向上に努めてきた。

氏の作品の系譜として、住宅作品をはじめ、日本藝術院賞を受賞した早稲田大学所沢キャンパス等の教育施設、日本建築学会賞を受賞した所沢聖地霊園、礼拝堂および納骨堂、熊谷市第二文化センター（熊谷文化創造館）等の市民ホール、BCS 賞を受賞した浅蔵五十吉美術館や酒田市美術館等の美術館、さらに石川総合スポーツセンター等の総合スポーツ施設まで多岐にわたる分野の作品を幅広く社会に送り出してきた。これらの作品には、壮大なスケールでの自然や都市との応答から、空間の変容を豊かに展開した様々な部位の手触りを感じられる原寸のスケールに至るものまで根底にあり、そこにこそ氏の真骨頂がある。建築が建つ場所の周辺環境との応答を常に考慮し、人ともとの内的な応答の体験のなかに、詩的、感性的な作品世界のヴィジョンを促し、建築を生命あるものにまで高めるといふ建築制作は、余人の追隨を許さないものである。日本における近代建築の展開が、えてしてその出自を機能・合理、技術至上主義的な観点にもつがゆえに、その方向での一面的ともいえる近代主義の建築理念の展開に特化しがちであった。そうした中で氏は、心に響く詩的、感性的な受容のレベルの空間にまで建築を高めるといふ、近現代建築の潮流が見落としていたものを提示し、促しを与え続けてきたことの意義は大きい。

ここに早稲田大学は、建築活動の業績と早稲田大学に対する功績と貢献に対して、池原義郎氏を早稲田大学芸術功労者として表彰し、その榮譽を永く顕彰するものである。

2016年1月15日

早稲田大学